



資料館インフォメーション



資料館の来館者が10万人を達成しました。

開館から918日目となる4月16日に、資料館は10万人目の来館者を迎え、記念セレモニーを行いました。

セレモニーでは10万人目の来館者となった南砺市立平中学校1年生の皆さんに花束と記念品を贈呈し、10万人達成の節目を祝いました。

関係者をはじめ、一般の来館者の方々にも参加いただき、とても賑やかなセレモニーとなりました。



記念セレモニー



海外へも学びの輪が広がっています。

開館以来、多くの外国人が資料館を訪れています。どの来館者も言語や文化の違いはあるものの、イタイタイ病の恐ろしさとその克服の歴史、環境と健康の大切さについて学ばれました。

特に、語り部講話では、涙する方もおられ、語り部のお話が聴講者の心に深く響いていました。



セント・マーガレットセカンダリースクール (シンガポール) の皆さん



オハイオ州立大学 (アメリカ) の皆さん

資料館の動き

これまでの出来事 (平成27年度上半期)

- 平成27年
- 4月16日(木) 来館者100,000人達成(918日目)
 - 4月25日(土)~5月6日(水・振休) 春の特別企画展 「立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～」
 - 7月31日(金)~8月1日(土) 夏休み自由研究講座～イタイタイ病を学ぼう～
 - 8月7日(金) イタイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
 - 8月20日(木) 小・中学校教員向け資料館活用研修会

これからの行事予定 (平成27年度下半期)

- 9月26日(土) 語り部による伝承会
- 平成28年
- 1月26日(火)~28日(木) イタイタイ病映像展
 - 2月13日(土) イタイタイ病を考える県民フォーラム



～国外への情報発信を強化しました～

資料館のロシア語ホームページの内容を詳しくすると共に、新たにバーチャル展示室を設けることで、よりわかりやすくなりました。

また、イタイタイ病の概要をわかりやすく解説したガイダンス映像も新たにロシア語版で制作したことにより、さらに国外からの来館者への対応が充実しました。

これによりホームページとガイダンス映像は、日、英、中、韓、露の5ヶ国語対応となり、資料館の国外への情報発信を強化しました。



ロシア語ホームページ



ロシア語ガイダンス映像

富山県立イタイタイ病資料館
Toyama Prefectural Itai-itai Disease Museum

資料館だより

2015年 秋号

contents

- 春の特別企画展開催 2
- 語り部コーナー 2
- イタイタイ病の教訓継承に向けて 3
- 子ども向け夏休み企画開催 3
- 資料館インフォメーション 4

平成27年4月16日 来館者10万人達成!!

4月25日~5月6日 春の特別企画展の開催



記念セレモニー (館長の挨拶)



春の特別企画展 (鼎談)



春の特別企画展 (写真パネルの展示)



記念セレモニー (記念撮影)

長野県の中学のイ病授業

富山県立イタイタイ病資料館 館長 鏡森定信

イ病資料館は開館以来4年目に入っています。これまでを振り返りこれからの活動の展開についても関係各位と相談しながら進めているところです。

県内の学校教諭の皆さんと毎年一緒に行っている「イ病資料館の活用研修会」では、はじめて県外の教諭を講師に迎えてこの夏休み中に実施しました。23人の参加者の中には帰省中の兵庫県からの教諭の姿もありました。

長野県屋代高等学校附属中学校の生徒さんは、平成25年以来毎年イ病資料館を訪れています。この中高一貫校の新谷逸也教諭にイ病を題材とした授業の経験をお話いただきました。生徒たちが公害の発生した時代背景そして住民が裁判を決意するまでの経緯に学習を集中し、ついには被害者や医師などが登場する朗読劇まで上演したお話に感激しました。

これまで1万人を上回る小学生が団体としてイ病資料館を訪れています。退館時の感想文からイ病の悲惨な歴史に心痛み、語り部さんのお話に涙した学童たちの姿が見てきます。「今度は自分で来てゆっくり学習したい。」に応えるべく資料館の学習支援も深化したいと考えています。



『立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～』の開催

～イタイイタイ病裁判当時の写真パネルの展示や鼎談を行いました～

4月25日から5月6日まで、春の特別企画展、『立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～』を開催しました。

企画展では、イタイイタイ病対策協議会の初代会長として患者救済、裁判勝訴に向け努力した小松義久氏と小松氏を支え、共に闘った住民の方々の功績を裁判の時期を中心に、写真パネルで振り返りました。

4月29日には、『まとめる力、支える力』と題して、鼎談を行いました。パネリストには、青島恵子萩野病院院長、高木良信イタイイタイ病対策協議会副会長、社会保険労務士の荒木芳郎氏に当時を振り返っていただきました。高木副会長には、被害者の家族としてだけでなく、被害者団体の副会長として小松会長を支え、住民をまとめ闘ってきた経験を、荒木氏には、富山県社会保障推進協議会の役員として被害者団体を支援した経験をお話いただきました。

鼎談の中では、イタイイタイ病裁判にあたり、なぜ住民たちが一枚岩で巨大企業と闘い、勝訴できたのかその点についても触れられました。

それぞれの立場でイタイイタイ病に携わり、裁判を闘ってこられたパネリストのお話に、約40人の参加者は真剣に聞き入っておられました。

今回の鼎談では、イタイイタイ病裁判での住民たちの活躍から『まとめる力、支える力』について会場の皆さんと共に考えました。



今回紹介する「語り部」さんは小松雅子さんです。小松さんの父・義久さんは、イタイイタイ病対策協議会の初代会長として、患者救済や裁判勝訴に尽力されました。小松さんには、父・義久さんの足跡を振り返りつつ、被害者団体会長の娘としてイタイイタイ病と向き合ってきた自身の体験をお父さんとの思い出を交えながら語っていただいています。

『父の想いを胸に』小松雅子さん(59歳)



父の活動の原点は、母や祖母の病状を間近に見た経験であり、多くの悲惨な患者さんを救済したいという強い信念のもと、イタイイタイ病と闘い続けた人生でした。会長を退いてからも、患者さんの認定問題・汚染田の復元・公害防止対策へと奔走していました。父は、公害の歴史を後世に伝えるため公設の資料館の建設を県に繰り返し要望し、ようやく活動が実った矢先の平成22年2月、資料館建設を目前に人生を閉じました。

石井県知事が清流会館を視察された日の父の笑顔や資料館整備を目指す知事の記者会見を見て、「長年の夢が叶った」と幾度も噛みしめるように言った父の言葉が、今でも甦り胸が熱くなります。

提訴した頃の父は、患者救済・住民運動に県内外を毎日駆け巡っていました。「裁判に負けたらこの土地には住めない」と覚悟しての闘いでした。

この頃から我が家には、二十数年に渡り、昼夜を問わず脅迫電話や無言電話の嫌がらせが続きました。そのような中であっても、今後の運動方針について、ただじつと下を向いて考え事をしていた父の姿を今でも想起します。そして患者さんが亡くなられた時は、真夜中であろうと厳寒の雪深い真冬であろうとも、出かけて行き、患者さんに寄り添う父でした。

また、第二審判決以後の父は、公害根絶を願いながら、東京・新潟・四日市など各地の活動に時間をいとわず出向していました。

晩年父は、「公害は環境問題の原点」であり、「真実を真実として語り継いで欲しい」と言葉を残しました。この言葉の重さを感じながら、患者さんの想い・克服までの道をしっかり見つけ、どう未来につなげるか、私自身日々問われているものと考えます。

そばにいたからこそ感じる父の想いを受け継いでいくことが私の使命であり、父の想いを胸に、今後も語り部の活動に傾注していきたくと思っています。

語り部講話の感想

イタイイタイ病の苦しさがよくわかりました。この公害を二度と繰り返さないように自分たちにできることをやっていきたいです。
(中学生 女子)

イタイイタイ病は、これからも人へと受け継ぎ、全ての環境問題に向き合っていくことが必要だと思いました。
(中学生 男子)

生々しい悲惨さが伝わってきました。被害者の苦勞を無駄にしないためにも二度とこのような問題を繰り返してはならないと思いました。
(20歳代 大学生 女性)

イタイイタイ病について深く理解できました。小松さんの父の患者救済に向けた努力の日々、大変だったろうと思います。でもその努力が今につながっているのだと思います。
(60歳代 女性)



語り部講話の聴講ができます。対象は10名以上の団体で、事前申込が必要です。詳しくは資料館へお問い合わせ下さい。なお、席に余裕がある場合は個人の方も同席のうえ、聴講できます。

イタイイタイ病の教訓継承に向けて

解説ボランティアによる『読み聞かせの会』を開催しました。

夏休み期間中(7月26日～8月26日)、資料館では解説ボランティアの田村すみ子さん、吉田孝子さんの協力を得て、資料館では初めてとなる、小学4年生以上を対象とした『読み聞かせの会』を8回にわたって開催しました。

『読み聞かせの会』では、イタイイタイ病について書かれた小説や裁判での証言を朗読し、資料館の常設展示だけでは伝えることのできない当時の患者の思いや苦しみ、関係者の苦勞の様子などを参加者の方に知っていただきました。



イタイイタイ病や資料館を学校の授業で活用していただくために研修会を開催しました。



資料館活用研修会を開催し、県内の小・中学校、特別支援学校から23名の先生方が参加されました。

実践事例の紹介では、長野県屋代高等学校附属中学校の新谷逸也教諭に発表していただきました。

新谷教諭は、生徒が校内の授業では決して見せない真剣な表情を資料館の見学では見せていたことに触れられ、校外授業で実際に資料館に足を運んだことが、事実認識させるのに重要な役割を担ったこと、そして見学を踏まえ、生徒に公害を自分の事として捉えさせ、それに対して自分として何が出来るのかを考えさせることが学びの発展につながった事例について紹介していただきました。

開催日時と内容

- 8月20日(木) < 13:30～16:30 >
 ①資料館学習メニューの紹介
 ②実践事例の紹介
 長野県屋代高等学校附属中学校 新谷逸也 教諭
 ③総括・指導助言
 富山国際大学子ども育成学部 水上義行 教授
 ④感想
 イタイイタイ病対策協議会 高木勲寛 会長

夏休み企画

子どもと保護者が一緒にイタイイタイ病を学びました。

○自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～

講座には、2日間で県内の小学生17名とその保護者12組29名が参加しました。

講座は、語り部の高木良信さん(患者家族、イタイイタイ病対策協議会副会長)に展示解説を行ってもらい、病気の恐ろしさや患者・家族の様子、裁判に至るまでの住民たちの歩みやその苦勞などについて、実体験を交えてお話していただきました。また、解説の合間には、クイズも行い、子どもと保護者で協力して展示室に隠された答えを探しました。

講座の後半には、環境工作をテーマにペットボトルロケットの製作を行いました。苦勞して完成させたこともあり、ロケットが発射台から勢いよく飛び上がる様子を見ると子どもたちは大喜びで、保護者からも歓声が上がっていました。

開催日時と内容

- 7月31日(金)、8月1日(土) < 13:00～16:30 >
 ①ガイダンス映像上映
 ②高木良信さんの展示解説
 ③ペットボトルロケットの製作



高木良信さんの展示解説



ペットボトルロケットの製作

○イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

真夏日となる中、県内の小学生14名とその保護者10組24名が参加しました。

神岡鉱業(株)では、和佐保たい積場やシックナー(排水処理施設)、排水管理センターといった工場内の施設を見学し、イタイイタイ病の発生源となった工場内の汚れた水が、現在ではどのように処理・管理されているのかを職員の説明を聞きながら学びました。

バスツアーの最後は、富山太陽光発電所 PR 館で太陽光発電の仕組みや再生可能エネルギーについて学び一日を終えました。

実際にイタイイタイ病ゆかりの地を巡る事で参加者の理解がより深まりました。

開催日時と内容

- 8月7日(金) < 8:20～16:50 >
 ①資料館 → ②富山市塩地区復元田 → ③神岡鉱業(株) → ④富山太陽光発電所PR館 → ⑤資料館



和佐保たい積場の見学



工場施設の見学

参加者の声

イタイイタイ病についてとても詳しく、楽しく学ぶことができました。(小学6年生 女子)

参加して新しく知ったことがたくさんあったので楽しかったです。(小学6年生 女子)

内容盛りだくさんで大変有意義なツアーでした。夏休みの自由研究もはかどりそうです。(40歳代 保護者 女性)

神岡鉱山の現在の取り組みを見学することができ、とても貴重な体験ができました。(50歳代 保護者 男性)